

河川基金助成事業

「川は自然の宝箱」 ～わたしたちと多摩川～ 報告書

助成番号：2018 - 7212 - 008

東京都多摩市立連光寺小学校

校長 棚 橋 乾

平成 30 年度

助成番号	助成事業名			学校名							
2018-7212-008	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～			多摩市立連光寺小学校							
校長名	棚 橋 乾		担当教諭名	藤本 珠実子・中島 直文他 2 名							
過去の助成実績	なし (あり) [助成番号：2017-7212-006 助成事業名：川は自然の宝箱～わたしたちと多摩川～]										
キーワード	水生生物、里山、水質、谷戸田、ESD										
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (4, 5 年 135 名)										
対象河川名	多摩川・大栗川	活動場所の指定状況		なし 子どもの水辺 (水辺の楽校)							
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ											
テーマ : 教育課程全体で取り組む ESD の実践と教育活動の工夫 ～生活科・総合的な学習の時間を軸とした連光寺カリキュラムマネジメント～ ねらい : 地域の人・自然・社会を生かした特色ある教育活動を教育課程全体と結びつけた学習活動にすることで、持続可能な社会の担い手としての6つの力を身につけた児童を育てていく。 評価の観点 : 環境や社会の仕組みを理解する。学び方を身に付ける。課題をつかみ、考え、判断し解決する。価値を見いだし、思いや考えを伝える。人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる。協力してよりよい社会をつくろうと行動する。 活動時期 : 4 月～3 月 の 1 年間											
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習 (理科・社会)	各教科学習 (国語など)	学校行事	その他 ()	合計					
上記の活動時間数	70 時間	10 時間	10 時間	時間	時間	90 時間					
支援者等 (複数記入可)											
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等					
河川管理者	行政機関 (博物館、資料館) 等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他					
支援概要	体験活動時には保護者、水辺の楽校の方々には安全確保をお願いしており、また魚類、野鳥、植物などの専門家には現場でそれぞれの解説や調査法の指導をいただいている。										
活動成果	発表形態			成果作品							
	学級単位	学年単位	学校全体	・まとめの作品づくり ・校内での発表会でのプレゼン ・交通公園へのポスター貼り など							
安全対策に関する課題											
・野外体験活動の実施の可否の判断がむずかしい。・台風や集中豪雨などにより、河川環境に大きな変化が生じ、活動を再開するために大雨後の河床の変化などを入念に下見する必要がある。・7 月、9 月の野外活動時は猛暑のため野外での活動が危険な状況になり活動できる期間が限られた。より高度な熱中症対策が必須となる。											
活動の成果と今後の課題・展開											
4 年生 : ・地域との連携は早めに計画する必要がある。特に野外での活動は天候に左右されるので、年間活動計画も柔軟に対応できるものにする。・限られた時間の中で行う活動の内容は精選していく必要がある。・発信や行動する力を育てるために、教室にとどまらず地域や他校との交流に広げていく工夫がさらに必要。 5 年生 : ・4 年生からの学習のつながりを意識して 5 年生の森の学習を進めることができた。・5 年生での教科の中にも川と関係の深い単元が多いので、カリキュラムマネジメントの視点からさらに年間指導計画を見直すことができるのではないかと。 共通 : 6 年間の学習のつながりをどのように創るかが課題としてあげられる。また、5 年生の学習を地球温暖化、エネルギーの学習へとつなげていき、最終的には地球環境への興味関心へと広げ、卒業時には 3 年生からの総合的な学習での経験の積み上げをもとに自分たちの街の未来を考えることができるようにしたい。											
活動内容と実施時期 (主な活動を 2 つのみ記入)											
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期						
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	生物調査 系	魚類	4～10 月						
			教育研究 系	河川環境教育	4～3 月						

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～				学校名	多摩市立連光寺小学校				助成番号	2018-7212 008							
2.単元名	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～																	
3.目標	多摩川の自然に関心を持って体験活動や問題解決学習を行うことを通して、課題追究の力を身につけるとともに、地域の自然への親しみや愛着を感じながら、自分たちがどのように関わり行動するか考える。																	
4.実施学年 人数	4年生 63名																	
5.場所	主に 多摩川中流域 関戸橋～大栗川合流点付近																	
6.単元構想（総時間数）	70 時間																	
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3						
4 学 年	多摩川で「発見」や「はてな」をみつけよう（16）				多摩川博士になろう（41）				多摩川とわたしたち（13）									
	多摩川での様々な共通体験活動を通して、豊かな自然を肌で感じ、興味・関心を深める				1学期の活動で見つけた「はてな」を課題として追究していく。調査計画をたて、仲間と協力して活動する。調べたことやわかったことを仲間に伝えあい情報を共有化して考えを深め、さらに課題を追究していく。探究活動の成果をまとめ自分なりの考えを発表する。				これまでの学習でつかんだことをもとに、これからの多摩川と自分や地域の関わり方を考え、行動・発信する。									
主 な 学 習 活 動	流れをたどってみよう（7） ・学校近くの湧水から地域の流れをたどってみると多摩川にたどり着く。 ・そこで、春の多摩川の観察 ・ふりかえりを行い地図におこして情報を可視化、共有		川の生き物観察 共通体験Ⅰ（4） ・多摩川に生息している植物について、水質調査、河原の石の観察 ・川の調べ方を教わり、次の体験への準備をする。 ・川の調べ方を知る。		川の生き物観察 共通体験Ⅱ（5） ・ガサガサ体験、河原の観察 ・川の調べ方を教わりながら、様々な生き物とであい、川のことを知る。 ・ふりかえりを行い、疑問や調べたいことの整理を行い、課題設定の足がかりとする。		夏休みの宿題 「川新聞」作り		課題別調査体験Ⅰ（9） ・1学期の体験活動をもとに、自分の課題を決め、調査の計画を立てる。 ・課題毎にグループで調査を行う。 ・調査でわかったことをまとめ、仲間と情報を交換してあらたな課題を立てて次の調査にむけて考える。		課題別調査体験Ⅱ（7） ・これまでの学習でわかったことやさらに調べたいことを整理して、次の調査計画をたてる。 ・課題毎にグループで調査を行う。 ・調査でわかったことをまとめ、仲間と情報を共有し、考えを深める。		調べ学習・まとめの活動（19） ・保護者やこれまでお世話になった専門家の方々を招いて、発表会を行う。 ・自分の考えを発表仕合い、友達の意見を聞くことで考えを広げたり、深めたりする。		発表会を開く（6） ・これまでの学習でわかったことやさらに調べたいことを整理し、図書資料、インターネット資料、専門家に聞くなどしてさらに追究する。 ・まとめの作品づくりをおこなう。 ・作品をもとに発表会を行う準備をする。（学年の中で第1回） ・総合的な時間の学習発表会として、地域、保護者、全国の先生方に向けて第2回目の発表）		多摩川みらい会議を開く（13） ・これまでの学習を通して、学んだことや考えたことを振り返る。 ・多摩川のよいところ、改善した方が点をあげて、多摩川のために自分たちができること、したいことを考え、計画を立てる。 ・実行に移す。	
	東京都水道局による水道キャラバン受講								社会科見学 多摩川の下流域、河口干潟を見学 また、水再生センターを見学									
評 価 項 目	ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ①多摩川の自然に関心を持ち、自分から進んで体験や観察・調査の活動に取り組むことができる。		ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ①多摩川の自然に関心を持ち、自分から進んで体験や観察・調査の活動に取り組むことができる。 イ：課題を見つめ解決する力 ①体験や調査を通して気付きや疑問を明確にして、あらたな課題に気付くことができる。 ウ：他者と協力し、活動する力 イ：課題を見つめ解決する力 ①体験や調査を通して気付きや疑問を明確にして、あらたな課題に気付くことができる。 ウ：他者と協力し、活動する力		イ：課題を見つめ解決する力 ①体験や調査を通して気付きや疑問を明確にして、あらたな課題に気付くことができる。 ②簡単な計画を立て、見通しを持ちながら追究することができる。 ウ：他者と協力し、活動する力 ②活動を振り返り、自分や友達の良さに気付くことができる。 ③地域の専門家の方々と積極的に関わりながら課題追究を進めることができる。		ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ②多摩川の自然や人間の関わりに対して、意欲的に課題追究することができる。 イ：課題を見つめ解決する力 ① 体験や調査を通して気付きや疑問を明確にしたあらたな課題に気付くことができる。 ② 簡単な計画を立て、見通しを持ちながら追究することができる。 ③観察や調査をしたり、資料を調べたりして、必要な情報を収集することができる。 ウ：他者と協力し、活動する力 ①自分なりの考えをもち、同じグループの仲間と話し合い協力して活動することができる。 ②活動を振り返り、自分や友達の良さに気付くことができる。 ③地域の専門家の方々と積極的に関わりながら課題追究を進めることができる。		イ：課題を見つめ解決する力 ②簡単な計画を立て、見通しを持ちながら追究することができる。 ③観察や調査をしたり、資料を調べたりして、必要な情報を収集することができる。 ウ：他者と協力し、活動する力 ②活動を振り返り、自分や友達の良さに気付くことができる。 エ：自分の思いや考えを伝える力 ①相手にわかるように表現方法を工夫し、調べたことや自分の考えを伝えることができる。		ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ②多摩川の自然や人間の関わりに対して、意欲的に課題追究することができる。 イ：課題を見つめ解決する力 ①体験や調査を通して気付きや疑問を明確にしたあらたな課題に気付くことができる。③観察や調査をしたり、資料を調べたりして、必要な情報を収集することができる。 ウ：他者と協力し、活動する力 ①自分なりの考えをもち、同じグループの仲間と話し合い協力して活動することができる。③地域の専門家の方々と積極的に関わりながら課題追究を進めることができる。 エ：自分の思いや考えを伝える力 ①相手にわかるように表現方法を工夫し、調べたことや自分の考えを伝えることができる。②活動を通して考えたことや調べたことを伝え合い、自分の考えを深めることができる。③多摩川の生態系や多様性に気付き、自分と自然の関わりを考えることができる							

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名		川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～				学校名		多摩市立連光寺小学校				助成番号		2018-7212- 008											
2.単元名		連光寺 SATOYAMA (里川・里山) プロジェクト																							
3.目標		・4年時の多摩川での学習をもとに、地域の雑木林や谷戸田とそこを流れる水路を含む里山での体験活動、地域の方々との交流を通して、学び方を身につけ、地域の環境の良さや問題点に気づき、これからの自分と自然のとの関わりを考える。 ・理科、社会科の関連単元で、4年次の多摩川の学習成果が活かせる単元で教材として多摩川を扱い、より実感のある学びとする。																							
4.実施学年 人数		5年生 75名																							
5.場所		多摩川中流域、多摩市連光寺地域、森林総合研究所連光寺実験林、都立桜ヶ丘公園、大谷戸公園など																							
6.単元構想 (総時間数)		70時間																							
月		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3	
5 学 年		連光寺 SATOYAMA 調査隊 (25時間)						SATOYAMA 博士になろう(25時間)						SATOYAMA から未来を考えよう (20時間)											
		体験活動を通して里山に対して関心を持つ。里山について自分のイメージを持ち、追求していく課題を意識する。 4年次の多摩川での学習経験から、雑木林が育む「水」について気づくことをねらいながら活動する。						1学期の里山での共通体験から、自分が深く知りたいテーマを設定しそれを追求していく。谷戸田での農作業体験や観察、地域の人々との交流を通して地域の自然の価値に気づき、これからの自分と自然とのかかわりを考える。特に谷戸田は水辺環境として良好な自然が残されている場所であることから、4年生の河川学習を元にさらに学習を深めたい						・調査したり、資料で調べたりしたことをもとにまとめの作品を作成し、それをもとに、保護者、地域の方々、さらには他校にも発信し交流する。 交流を通してお互いの共通点や相違点を見出して考えを深める。 ・1年間を振り返り、地域の里山の価値に気づき、人と自然の共生について考え、自分なりの意見を持つ。											
主 な 学 習 活 動		・森へようこそ(3時間) 森の中の水を探せ大作戦 ・森林ウォークラリー (6時間) 高尾森林科学園に行き、森のみかたや調査の仕方を学ぶ。		森を知る (8時間) ・「里山」とは？ 調べてまとめる 理科 ・流れる水の働き： 4年次の多摩川での学習を振り返り石や流れの様子を考える。		谷戸田での活動(6時間) ・田起こし 作業を通して谷戸の自然を体感する。 ・田植え 作業を通じ田んぼについての水の重要性を感じる。 ・稲の生長と田んぼの生き物観察 良好な水辺環境としての谷戸田を感じる。		谷戸田(6時間) ・田んぼの観察 ・稲刈り ・脱穀 ・粃すり、精米 ・収穫祭・(調理、試食)		森を知るⅢ・Ⅳ(19時間) 各自が課題を設定し、追求する活動。 ・各自の課題に沿った活動を行う。 ・課題を追求するために課題別のいくつかのグループにわけ活動。 ・課題に対応できる、専門家の方をできる範囲で支援してもらえるようにし		理科 ・天気と情報：台風による河川の増水とその被害などについて、多摩川の増水時の様子を観察する。		まとめの活動(14時間) ・各自の課題についてこれまでの活動の記録、本、インターネットなどを使ってまとめ、作品をつくる。 ・発表会を行う。		社会科 ・私たちの生活と森林：多摩川源流の水源涵養林について学ぶ。 ・環境をまもる：様々な環境を守る活動を学ぶ。 ・自然災害：自然と人間の生活との間の問題を考える。多摩川の洪水ハザードマップなどを用い身近な問題として防災をかんがえる。		・わたしたちの生活と環境 ・わたしたちの生活と森林 ・環境を守るわたしたち ・自然災害を防ぐ まとめ・発表(6時間) ・さらに全体でまとめを行い、地域の自然についての考えを深める。 ・地域の環境に関する提言書を作成し、実行が可能なものについては行動につなげていきたい。							
評 価 項 目		ア 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる力 ① 仲間と共同し、主体的に雑木林体験や谷戸田での農作業や観察を行う。 イ 課題を見つめ、解決する力 ① 森林ウォークラリー体験や谷戸田での活動を通して、自分のテーマをもち、計画を立てて調べる。						ア 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる力 ① 里山で活動する地域の人との交流活動を積極的に行う。 イ 課題を見つめ、解決する力 ① 森林ウォークラリー体験や谷戸田での活動を通して、自分のテーマをもち、計画を立てて調べる。 ウ 他者と協力し、活動する力 ① 仲間と協力して作業を行ったり、話し合いを通して考えを深めたりする。						ア 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる力 ① 里山で活動する地域の人との交流活動を積極的に行う。 イ 課題を見つめ、解決する力 ① 調査活動、情報共有を通して、里山に対して自分たちにできることを考える。 ウ 他者と協力し、活動する力 ① 仲間と協力して作業を行ったり、話し合いを通して考えを深めたりする。 ② 友達との伝え合いを通して自分の考えや友達の考えの良さに気付く。 エ 自分の思いや考えを伝える力 ① 活動の様子や自分たちの考えを整理・分析してまとめ、仲間や地域の人に分かりやすく伝える。											

1.助成事名		川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～					学校名	多摩市立 連光寺小学校			助成番号	2018-7212 008	
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
4 学 年	多摩川で「発見」や「はてな」をみつけよう（20）					多摩川博士になろう（31）					多摩川とわたしたち（19）		
	た多摩川での様々な共通体験活動を通して、豊かな自然を肌で感じ、興味・関心を深める					1学期の活動で見つけた「はてな」を課題として追究していく。調査計画をたて、仲間と協力して活動する。調べたことやわかったことを仲間に伝えあい情報を共有化して考えを深め、さらに課題を追究していく。 探究活動の成果をまとめ自分なりの考えを発表する。					これまでの学習でつかんだことをもとに、これからの多摩川と自分や地域の関わり方を考え、行動・発信する。		
	多摩川で「発見」や「はてな」をみつけよう！ 13時間												
	流れをたどってみよう 7時間 4月【出会う】 ・オリエンテーション 「水とのつながり」 ・「水たどり」		6月【共通体験Ⅰ】 「川原の観察」「ガサガサ体験」などについて体験 体験後 ・「発見カード」と「?（ハテナ・疑問）カード」を書き、次の活動の課題やグループ作りに生かす。 ・ドーナツチャートを使ってテーマを絞り込む ・体験の後にふりかえりとして作文を書くようにした。		7月【共通体験Ⅱ、課題別活動】 前回の活動に基づき、もっとやってみたいことに活動を絞り込んで活動を選択 水生生物、野鳥、植物、石、昆虫、水の流れや水質 等		9月【テーマ別調査】 ・テーマを決める ・現地調査Ⅰ 荒天続きのため、ゲストティーチャーによるテーマ別レクチャー 9月【調べ学習】 ・図書資料等を活用し、疑問に思ったことを調べる。 ・現地調査の準備		10月【テーマ別調査】 ・テーマ別現地調査 ・現地調査のふりかえりとまとめ 10月【調べ学習】 ・図書資料等を活用したり、専門家の方に聞いたりして、疑問に思ったことを調べる。 ・まとめの計画を立てる。		11月～12月 【まとめ作品作り】 12月【報告会】 ・調べたことを作品にまとめる。 ・学年内で発表会 連光寺版「のはら歌」の作成		
							社会科見学 多摩川の下流域、河口干潟を見学 また、北多摩水再生センター見学				1月【第2回研究発表会】 ・12月の発表会を元にさらに人に伝える工夫をして準備する。 ・これまでの学習をもとに自分の考えをまとめ、仲間や地域の方々と交流する。		
											3月【活動】 ・多摩市環境政策課の方のお話を聞き、多摩川に対して自分たちにできることを考える。 ・話し合いを元に活動を考える。 ・できることを実行する。（ポスター作成、ゴミ拾い）		
	東京都水道局による 水道キャラバン受講												

8.成果と課題

成果

○多摩川での様々な活動を通して、川の自然に興味や関心をもつことができ、自然に対する視点が広がった。○専門家の方々、保護者など多くの地域の人と関わりをもつことができ、「地域の中の自然」「自分も地域の一員である」という意識をもつことができた。○年間を通して活動したことで、四季折々の多摩川を感じることができた。○仲間と協力して調査計画を立てたり、活動を振り返ったり、まとめの作業をする中で協同的な学習を進めることができた。○ワークシートや作文用紙にわかったことや感じたこと、疑問に思ったこと等を繰り返し表現してきたことで、教師が児童の思いをくみ取ることができ、児童自身も活動を振り返って活動をより深く考えることができた。○多摩川までの長い道のりは、体力・気力を養うことにつながった。また、活動には準備が必要が多く、必要なものをそろえる習慣が付くなど、生活上の効果がみられた。○共通体験から児童が見出したことを基にテーマを決定したため、児童が自分ごとの問題として捉えており、主体的に活動に取り組むことができた。○テーマごとに細かくグループを分け、少人数で活動させることで、活動計画や活動に主体的に取り組むことができた。○体験活動や調査活動の後には振り返りを書く時間を設けたことで、学んだことや考えたこと、新たな疑問などを表出することができ、深い学びを助ける一因となった。○他教科との関連を考えてカリキュラムを組むことで効率的な学習計画を立てることができ、深い学びにつながる道筋がみえてきた。○3学期に多摩市の環境政策課の方のお話を聞き多摩市の環境に対する取り組みを知り自分たちができる事を考えることができたのは、子どもたちにとっても市の環境政策にとっても評価できる活動であった。

課題

- 地域との連携は早めに計画する必要がある。また、天気によ左右されることもあるため、柔軟な計画を立てる必要がある。●6月からかなりの高温となり野外での活動は危険な状況になってしまった。猛暑対策を考えることが必至である。今夏はテントを立てて日陰を作る工夫や冷却剤、イオン飲料を用意するなどかなり準備したが、間に合わない状況であった。
- 限られた授業時間の中で行うためには、さらに活動内容を精選していく必要がある。ねらいや目標に即した活動を取捨選択しなければいけない。
- 「発信する力」や「未来をつくる力」を育てていくために、教室内だけに留まることがないよう、地域の方や他校の児童と意見交換するなどの計画を考える必要がある。（今年度も計画はしていたが相手校との日程調整がうまくいかず実現できなかった）

1.助成事業名	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	学校名	多摩市立連光寺小学校	助成番号	2018-7212 008
---------	---------------------	-----	------------	------	---------------

7.実際にいった単元構成	
--------------	--

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
5 学 年	連光寺 SATOYAMA 調査体（25時間）					連光寺 SATOYAMA 博士になろう(25時間)				SATOYAMA から未来を考えよう（20時間）		
	体験活動を通して里山に対して関心を持つ。里山について自分のイメージを持ち、追求していく課題を意識する。 4年次の多摩川での学習経験から、雑木林が育む「水」について気づくことをねらいながら活動する。					1学期の里山での共通体験から、自分が深く知りたいテーマを設定しそれを追求していく。谷戸田での農作業体験や観察、地域の人々との交流を通して地域の自然の価値に気づき、これからの自分と自然とのかわりを考える。特に谷戸田は水辺環境として良好な自然が残されている場所であることから、4年生の河川学習を元にさらに学習を深めた。				・調査したり、資料で調べたりしたことをもとにまとめの作品を作成し、それをもとに、保護者、地域の方々、さらには他校にも発信し交流する。 交流を通してお互いの共通点や相違点を見出して考えを深める。 ・1年間を振り返り、地域の里山の価値に気づき、人と自然の共生について考え、自分なりの意見を持つ。		
	・森へようこそ(3時間) 森の中の水を探せ大作戦 ・森林ウォークラリー（6時間） 高尾森林科学園に行き、森のみかたや調査の仕方を学ぶ。		谷戸田での活動(6時間) ・田起こし 作業を通して谷戸の自然を体感する。 ・田植え 作業を通じ田んぼにとっての水の重要性を感じる。 ・稲の生長と田んぼの生き物観察 良好な水辺環境としての谷戸田を感じる。		理科 ・流れる水の働き：4年次の多摩川での学習を振り返り石や流れの様子を考える。 ・流れを作って水の働きを探る活動。		森を知るⅢ・Ⅳ(8時間) 各自が課題を設定し、追求する活動。 ・各自の課題に沿った活動を行う。 ・課題を追求するために課題別のいくつかのグループにわけ活動。 ・課題に対応できる、専門家の方をできる範囲で支援してもらえるようにした。 今年度はテーマに森の中の水について追究したグループができた。水質や森の保水力について探究。		理科 ・天気と情報：台風による河川の増水とその被害などについて、多摩川の増水時の様子を観察する。		谷戸田(7時間) ・田んぼの観察 ・稲刈り ・脱穀 ・粃すり、精米 ・収穫祭・(調理、試食)	
	森を知る(8時間) ・「里山」とは？調べてまとめる						社会 食料生産とわたしたち ・食料生産と環境 ・地域の自然と谷戸田の役割、環境保全活動を行っている人々との出会い。		まとめの活動(12時間) ・各自の課題についてこれまでの活動の記録、本、インターネットなどを使ってまとめ、作品をつくる。 ・発表会を行う。		社会科 ・私たちの生活と森林：多摩川源流の水源涵養林について学ぶ。 ・環境をまもる：様々な環境を守る活動を学ぶ。 ・自然災害：自然と人間の生活との間の問題を考える。多摩川の洪水ハザードマップなどを用い身近な問題として防災をかんがえる。 炭焼き体験 高尾森林センターの方の林業や森林の働きの話を聞く。	
												

8.成果と課題

成果：○4年生の川の学習から5年生の森林の学習へ、また5年生の森林の学習から6年生のエネルギーの学習へつながりを考えながら指導計画を立てることができた。児童の思考にも前の学年でつかんだことを生かしながら学習を進めるなど深まりがみられた。○特に森の中の水をテーマに取り組んだ児童がいたことは興味深かった。4年次の学習が生きていたことを実感した。○「連光寺 SATOYAMA プロジェクト」の全体を通して、環境を考えるための学習活動として展開することができた。また、他教科や行事との結びつきが「環境を守る」という観点で精選された。○里山での人の営みには「水」が欠かすことのできない要素であることに気づいた。○理科・社会の単元で多摩川を教材として実感を伴う授業を行うことができた。○様々な体験や学習を通して地域の自然への愛着が高まり、普段当たり前だと思っていた地域の環境の良さに気づき、「この自然を未来にも残したい」「自然をまもっていききたい」と言葉に表し意識するようになった。

課題：

●調査結果や調べたこと、教えてもらったことを整理してわかりやすく仲間に伝えることがなかなかできなかった。●「○○したい」という思いはもっているが、それを解決するための手立てや計画を立てることが苦手。●理科・社会との関連で教科関連事項を整理して、より教材化を進めたい。●調べ学習やまとめの作業でインターネットの情報に依存する傾向が強く、現場で触れた実物や体験をもっといかせるようになりたい。●児童が主体的に取り組めるフィールド環境の確保、プログラムの構築をよりいっそう進めていくようにしたい。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2018-7212-008	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 校長 棚橋 乾



フィールド：大谷戸公園のわき水

日 付：2018.4.23

コメント：学校の近くの森に降った雨はどこに行くのだろうか。多摩川の学習の始まりのプログラム。
川たどりをしていくと春の多摩川のほとりに着きます。



フィールド：多摩川支流大栗川

日 付：2018.6.19

コメント：初めての多摩川でのガサガサ体験。川に入るのが初めての児童も半数以上。昨年とフィールドが異なり捕れる魚も違うのが興味深い。身体で感じて、たくさんの発見をすることができたでしょうか。



フィールド：多摩川支流大栗川

日 付：2018.7.2

コメント：朝から気温が高く、猛暑日となりました。河原は日光を遮るものもなく、照り返しで想像以上の暑さです。石を調べていてもテントの陰に入って熱中症を防ぎます。水に入らないテーマの活動は大変です。

注) 写真は5～6枚程度(枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2018-7212-008	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 校長 棚橋 乾



フィールド：多摩川支流大栗川

日 付：2018.10.5

コメント：2学期に入ると今度は天気が悪く、なかなか予定通りに川に行けませんでした。やっと実施できたものの少し肌寒く、夏の暑さがうそのようでした。各自のテーマに分かれて探究活動です。今期多摩川に来られるのもこれがさいごです。



フィールド：大師河原干潟館前の多摩川

日 付：2018.10.23

コメント：多摩川下流、東京湾にあと少しという河口干潟に社会科見学でやってきました。自分たちが使った水が水再生センターできれいにされて多摩川に放流されて流れ下った先がこの干潟です。いつも活動している中流とずいぶん違うということがわかったでしょうか。たくさんのカニと出会う事ができました。



フィールド：北多摩水再生センター

日 付：2018.10.23

コメント：北多摩水再生センターに社会科見学でいきました。自分たちの使った水がどのようになるのかを実際に見ることができました。たくさんの工程をたどった後にきれいな水となって多摩川に返されることがわかりました。

下流の水はその半分以上が再生水だということもわかりました。

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなくても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2018-7212-008	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 校長 棚橋 乾



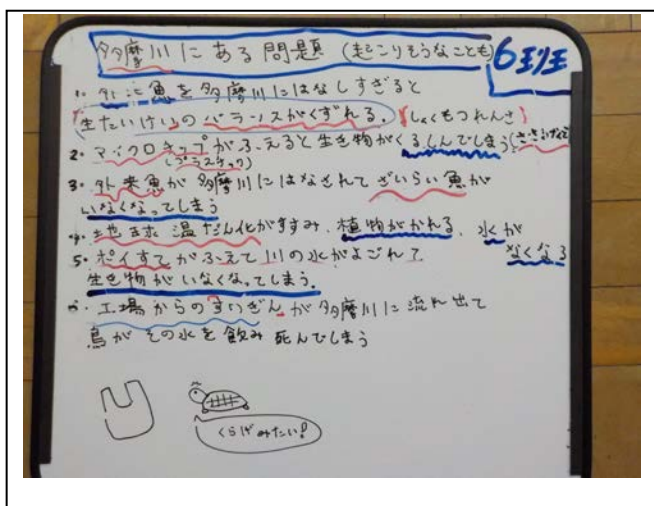
フィールド：多摩市連光寺小学校

日付：2019.1.23

コメント：校内研究発表会

全国の学校の先生や教育研究者の方々、市内の学校の先生や保護者、そして全校の児童が見学する中での学習発表会。4年背英は5～6人のグループに分かれブースごとに発表を行いました。わかったことをわかりやすく伝えることができたでしょうか。

終わった後は、やりきった満足な表情が印象的でした。



フィールド：多摩市連光寺小学校

日付：3月前半

コメント：これまでの学習から、多摩川をもっとよくするための方法を考えました。まずは問題のあるところを話し合っていました。

この後、自分たちにもできることを考えて行きます。



フィールド：多摩市連光寺小学校

日付：2019.3.8

コメント：多摩市環境政策課の課長さんに来ていただき、多摩市が多摩川に関して行っていることをお話していただきました。また、家庭や学校で心がけてもらいたいことも話してもらいました。

このお話をもとに、自分たちにもできることを考え、行動を起こしました。ポスターを書いたり、家庭で排水溝にできるだけ汚水を流さないようにしたり、川にゴミ拾いのボランティアをしにいったりしました。

注) 写真は5～6枚程度 (枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

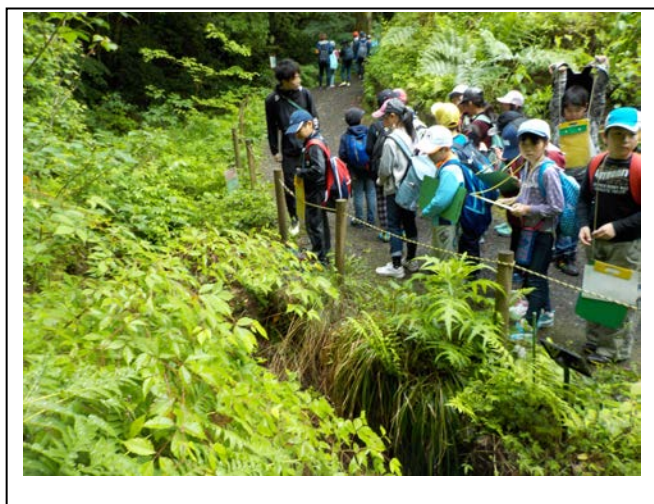
助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2018-7212-008	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 校長 棚橋 乾



フィールド：高尾森林科学園

日 付：2018.5.8

コメント：高尾森林科学園で森のみかたや調査の方法を見学する。また、川の始まりである上流の環境の見学も兼ねる。



フィールド：高尾森林科学園

日 付：2018.5.8

コメント：多摩川支流の浅川の最上流部にあたる森林科学園の森。中流と違い森からしみ出る水が細い流れとなって川が始まることがわかる。
森の保水力についての展示も見逃せない。



フィールド：桜ヶ丘公園内の谷戸田

日 付：2018.6.18

コメント：屋戸田で田起しと田植えを行う。

この田んぼは森からわき出る水で通年潤う通年湛水田んぼで、景観保全のための谷戸田です。

この谷戸田には通年湛水だから生息できる希少な生き物や植物が数多くいる。

貴重な田んぼとそこに生きる生き物を観察しながら昔ながらの稲作りを体験する。

稲作と水の関係も学んでいく。

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなくても、また複数ページになってもかまいません。）

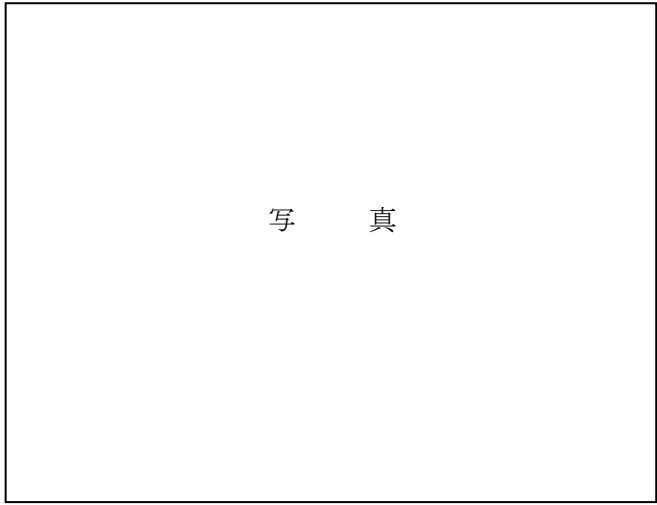
助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2018-7212-008	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 校長 棚橋 乾



フィールド：多摩市立連光寺小学校
日 付：2019.1.23
コメント：校内研究の全国発表会
5年生は全校の発表の場でも役目を担い、オープニングセ
レモニーで発表を行った。



フィールド：多摩市立連光寺小学校
日 付：2018.1.23
コメント：学年では、グループに分かれて個別テーマの研究
発表と里山の未来を考えた発表をグループごとに行った。
今年は「森の中の水」についての調査テーマもあり、これ
までの学習の積み上げを感じることができた。



フィールド：
日 付：
コメント：

写 真

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2018-7212-008	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 校長 棚橋 乾

助成事業の主な実施箇所	主な実施箇所
	※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。 (縮尺は1/50万～1/100万程度)  ：枠線の中が活動場